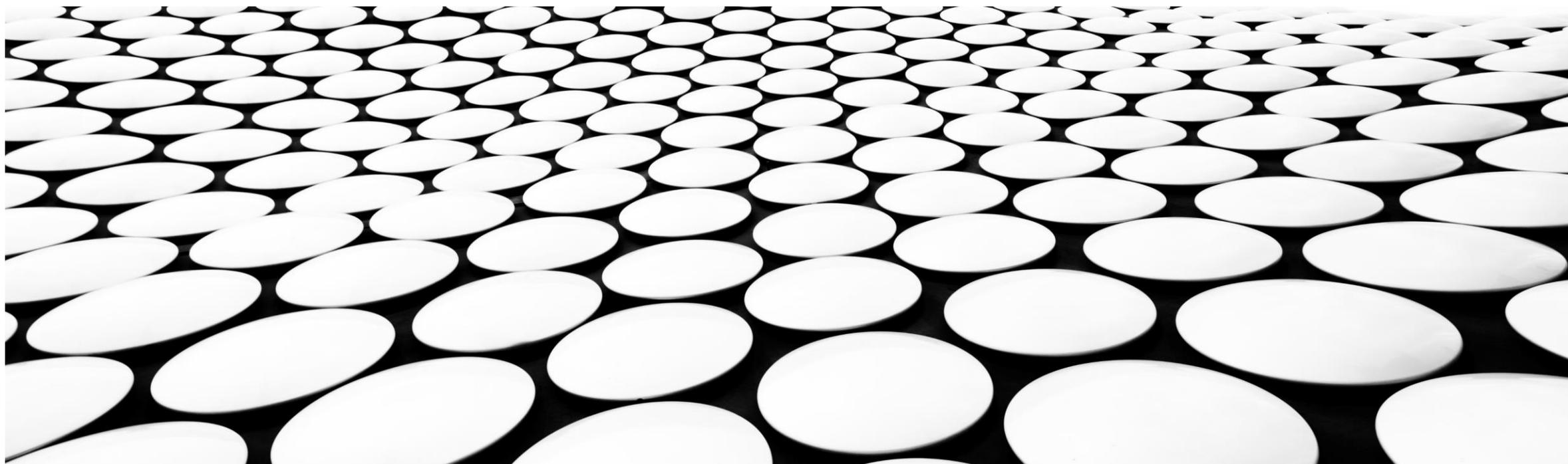


---

# デジタル講座

NFTとは編



# 概要

## ➤ NFTとは

NFTとは「Non-Fungible Token（ノン・ファンジブル・トークン）」の略  
日本語に訳すと「非代替性トークン」  
非代替性って何？ トークンって何？ よく分かんない。  
直訳で「替えが効かないデジタル資産」

「**替えが効かない資産**」の対義語として「**替えが効く資産**」がある

「**替えが効く資産**」の例 車、パソコン、楽器、家電など

「**替えが効かない資産**」の例 サインボール、鍵、コンサートチケット、卒業証書など

NFTは「**替えが効かない“デジタル”資産**」画像や、音声や、動画といったアナログな「実物」のないデジタルデータは、一度でもインターネットに載せてしまえば、コピーされ放題そんなコピーされ放題のデジタルデータに、どうして唯一無二（替えが効かない）が成立する？

これを理解するには、先に「**ブロックチェーン**」という仕組みを理解する必要がある。

## ➤ ブロックチェーンとは

ブロックチェーン技術とは情報通信ネットワーク上にある端末同士を直接接続して、取引記録を暗号技術を用いて分散的に処理・記録するデータベースの一種

AさんがBさんに1万円を送る場合銀行を利用します。

その際にAさんがBさんに1万円が送られたことを知っているのはAさんとBさん

そして二人の間に入った銀行だけ。その他に人は知りようがありません。

多くのサービスは銀行のように、真ん中に「管理をする機関」がいてその機関を通じてやりとりをしている。

一方、ブロックチェーンにはそのやりとりを管理する機関が無い。

大きな会社や銀行が皆のやりとりを管理しているわけではなく、皆のやりとりは皆で管理している。

デジタル資産を入れておく「お財布」のことを「ウォレット」と呼び、ブロックチェーンの世界ではAさんのウォレットからBさんのウォレットにデジタル資産が直接送られる。

そして「Aさんのウォレットから、Bさんのウォレットにデジタル資産が送られた」という事実(データ)を皆で共有している。そればかりか、ウォレットの中身も皆に筒抜けだ。

キミが「どんなものにお金を使う人なのか？」は誰でも調べることができる。

これがブロックチェーンという仕組み。

## ➤ ここからがNFTの話

NFTは今説明したブロックチェーンで管理されている。

たとえばデジタルのイラストを描いて、SNSにアップして、「イラストの保有権」をBさんに10万円で販売してみる。画像は誰でも保存できるので、何名かのスマホの画像フォルダに「イラストデータ」が保存される。

ただ、皆で管理しているBさんのウォレットを見てみると「イラストの保有権」がある。ある日、Bさんがその「イラスト」をCさんに売ったとする。すると「イラストの保有権」はBさんのウォレットから、Cさんのウォレットに移動する。

皆は、今はCさんが「イラストの保有権」を持っていることを知っている。ここで扱われている「保有権」こそがNFTだ。

イラスト画像データは誰でも持っている。

「その画像・動画・音声…デジタル資産の保有者は誰なのか？」を証明してくれる証明書がNFTであり、その「証明書」に値がついている。NFTと呼ばれ、売買されているのは「証明書」だ。

これまでは、無限に複製されるデジタルデータに「持ち主」を作ることなど不可能だった。だけど、ブロックチェーンという「皆の持ち物と皆で監視し合う技術」がそれを可能にした。